

「ハワイ大学マノア校語学研修参加報告書」

京都大学文学部2年 大西 佑佳

8月の約3週間に渡り、ハワイ大学が実施するNICEプログラムに参加しました。

プログラムの内容については、初日にオリエンテーションと、クラス分けのためのリスニングと先生と1対1のスピーキングのテストがありました。難易度は高くなく、リラックスして受けることができました。授業自体は平日の午前中の4時間で、英語のみのスピーキング練習が中心でした。与えられたトピックについて3~4人のグループでディスカッションすることがメインでした。英語が堪能な人が多く、自分ももっと頑張ろうという気持ちになりました。また、授業の最初には毎回ウォーミングアップのためのミニゲームなどをして、先生やクラスメイトと楽しく交流する機会がありました。週末にはOff Campus Activityがあり、クラスで行きたい場所を決めて課外授業をしました。私のクラスは、生徒が各自調べたことを発表しながらダウンタウンを散策したり、カハラモールを訪れ、ホールフーズというスーパーマーケットについて調査したり、Scavenger Huntをしたりしました。Scavenger Huntでは、お店の人に質問して親切に対応してもらい、現地の人のおたたかさを感じました。授業の最終日には、ハワイを舞台にした映画を見ることになり、“Lilo & Stich”を鑑賞しました。3週間見てきたハワイの景色や文化が鮮明に描かれていて、見ていて楽しかったし、帰国が迫っていることを思うと感慨深い気持ちになりました。

ハワイ大学の学生との交流については、週に2時間、インターチェンジという交流の時間があり、趣味や食べ物や観光地などについて気軽に話をしました。ただ、その時間しか交流できなかったのも、もっと一緒に時間を共有できたら良かったなと思いました。もっと積極的に交流しようという気持ちが必要だったと思います。

3週間授業を受けて、ハワイの歴史や文化や言語について多くのことを知ることができました。授業で習った中で一番印象に残っているのは、ハワイは親切な人が多く、「アロハスピリット」を大切にしているということです。例えば、信号のない横断歩道で止まっていると、ほとんどの車が歩行者のために止まってくれました。

私は「自信を持って英語を話す」ことを授業中の目標にしていました。グループディスカッションで積極的に自分の意見を述べたり、最終プレゼンではアイコンタクトをしながら分かりやすく伝えるように心がけたりしたことで、その目標を達成できたと実感しました。

授業の後は、いつも友達と行きたい場所を計画して思いっきり遊びました。たった3週間ではやりたいことのすべてを実行することはできませんでしたが、迷っては地図を見たりバスを待ったりと、毎日を全力で生きるという経験をしました。午前中は授業を頑張って、午後や週末はハワイを満喫するという形で、うまくバランスが取れていたし、本当に幸せな生活を送ることができていたと思います。

ホームステイについては、日本語と英語のバイリンガルの家庭だったので、意思疎通に苦労することはありませんでした。みんな仲良くにぎやかで、ホストマザーの料理もおいしくて、良い家庭に受け入れてもらえました。ただ、日本語が通じるということで、どうしても日本語で話してしまうことが多く、英語の学習的には常に英語を話すという意識を持っていなければならなかったと思います。英語でも不自由なく意思疎通できるようになって、たとえ日本語が通じる相手にでも、自然と英語で話せるようになりたいと思いました。

今回の研修では様々な経験ができたと同時に、英語学習をもっと頑張ろうと強く思いました。この研修への参加をサポートしてくださった方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。